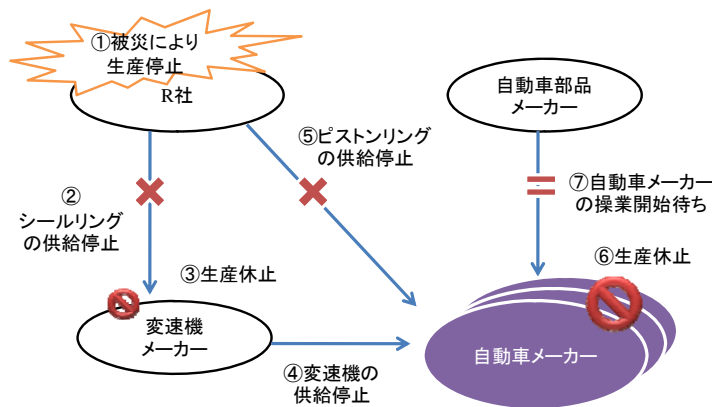


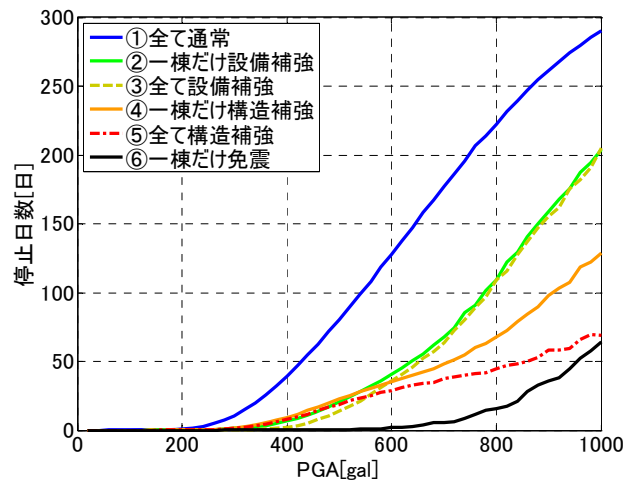
大学における地震AACP(学術活動継続計画)の調査及び考察

相馬 直樹 東京大学大学院高田研究室修士課程 (2009年度)



BCPが不十分だった例
(新潟県中越沖地震; R社)

出所) 宗(2008)を基に作成



提案した地震AACPによる曲線の変化

研究の概要

BCP(事業継続計画: Business Continuity Plan)とは、「不測の事態が発生した場合でも、重要業務を停止させず、または目標復旧時間内に再開させ、事業停止による顧客の流出、マーケットシェアの低下、企業評価の低下を防ぐための計画」のことである。特に左上図の新潟県中越沖地震の例では、自社だけでなくサプライチェーンおよびその周辺の企業に影響が波及してしまうことが明らかとなり、BCPが注目されるきっかけのひとつとなった。

一方大学に目を向けると大学全入時代や経営赤字による廃校が現実のものとなり、企業だけでなく大学も、BCPを策定しステークホルダーの要求により一層応えなければならない時代となった。

そこで本研究では、地震を対象に絞った大学のBCPを、地震AACP(学術活動継続計画: Academic Activity Continuity Plan)と呼称し、その現状把握と考察、さらに提案した地震AACPの評価を行う。

現在までの研究で得られている成果は、大まかに次の三つである。

- ① 任意の大学の学術活動継続性を定量的に把握でき、大学間比較が可能になった
- ② キャンパス分散が、学術活動継続性の視点から好ましいことを示した
- ③ 提案した複数の地震AACP(右上図)はそれぞれ固有の特徴があり、大学ごとに適した地震AACPが違ふことを予測した

主な成果

1. 相馬直樹, 高田毅士: 大学における地震に対する学術活動継続性評価手法の提案, 日本建築学会大会学術講演梗概集, B- II, pp.267-268, 2009. 8
2. 相馬直樹: 大学における地震AACP(学術活動継続計画)の調査及び考察, 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士論文, 2010. 2